

Y21b

高校生天体観測ネットワーク・しし座流星群観測会

小川宏(筑波大自然科学類)、高校生天体観測ネットワーク実行委員会

高校生天体観測ネットワーク・しし座流星群国際観測会は、1998年全国高校生同時観測会、1999年そして2000年の高校生国際観測会に続き、4年目のプロジェクトとなった。さらに2001年は日本でしし座流星群の大出現を見る最後のチャンスでもあったため、この一連のしし座流星群観測会の集大成として、取り組んだ。「より多くの高校生にしし座流星群を見てもらいたい」という運営委員会のねらいから、観測方法はこれまで同様、観測の基礎ともいうべき、眼視による計数観測を行った。その他、流星の電波観測や、写真観測、そして40台のビデオカメラを配布し、ビデオ観測も行った。これらの観測方法によって、日本列島全体を、流星物質の分布を調べる“流星カウンター”として機能させた。観測夜には、速報データと共に、「きれいだった」「今日の流れ星は心に刻まれました」といった感想が寄せられた。観測報告は、国内162グループ、海外10ヶ国16グループ(約2000名)より寄せられた。日本では、しし座流星群の大出現に遭遇し、10分間に、200個以上の流星が見られ、中には、カウントが不可能だったという報告も見受けられた。しし座流星群観測会がはじまってから4年目にして、集大成の年としてふさわしい、しし座流星群の大出現が見られ、多くの高校生が空を見上げ感動した。このような機会は高校生にとっても大きな財産となるであろう。今後もこの高校生天体観測ネットワークが、現在叫ばれている理科離れを防ぎ、多くの交流を生み出していくことをスタッフ一同願っている。